

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 056	提案機関名 神奈川県漁業士会
要望問題名 磯焼け対策と養殖ワカメ・海苔の食害対策について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ①磯焼け対策 温暖化や冬場の海水温上昇により、藻食性魚類のアイゴやウニ類が増加し、海藻の減少(磯焼け)によるアワビ・サザエ等の磯根資源の枯渇による減収が著しく、各浜の漁業者の新たな収入源となったアカモクも相模湾側では激減し、増加傾向にある東京湾の生産者に依存している。これを改善するため次の事項を要望します。 ・効果的な磯焼け対策技術開発 ・早熟カジメやアラメを用いた海藻増殖技術開発 ・アカモク種苗を用いた増養殖技術開発 ②ワカメや海苔等の食害対策等について 相模湾側の長井～鎌倉にかけては、黒潮がA型基調となり冬場の沿岸水温が上昇した5年前より、磯焼けの進行と合わせて、養殖ワカメのアイゴやボラ等による食害被害が著しくなった。昨年は東京湾側の金田～鴨居にかけても大きな食害被害があり、ワカメ種苗の不足や、高水温下における生育不良と合わせて3～5割の減収となっている。 また海苔養殖についても、カモやクロダイによる食害や、高水温下での生育不良が減収に繋がっている。これを改善するため次の事項を要望します。 ・ワカメや海苔養殖の食害対策 ・高水温下でも早く育ち肉厚で製品歩留まりが良いワカメ品種改良と種苗生産	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 神奈川県漁業士会として、県下の各浜の課題解決に向けた試験研究を要望致します。 上記課題で成果が得られたものについては、漁業士研修会や漁業者交流大会で講演下さい。	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 藻場再生技術高度化試験、磯焼け対策事業費、フリー配偶体を用いたワカメの優良系統の開発			
対応の内容等 ①当センターでは、藻場再生技術高度化試験において、アカモクの種苗生産を実施しています。当センターが生産したアカモク種苗を横浜市、逗子市、三浦市及び小田原市の漁協に供給し、各地においてはワカメ養殖に用いる既存の資材を有効活用してアカモクの養殖試験に取り組んでいます。今後も各地の要望を取り入れ、アカモク種苗を養殖試験に供給して参ります。 ②漁閑期となる冬場のワカメ養殖は、漁業者の重要な収入源となっていますが、近年、アイゴやボラ等による食害被害が発生するとともに、水温上昇等による生育阻害もあいまって、大きな影響を受けています。食害の防止を図り、養殖筏を網で囲う「食害対策ネット」を設置する試験を行ったところ、対照の未設置筏ではアイゴによる壊滅的な食害被害があったのに対し、食害対策ネットを設置した養殖筏ではほとんど食害被害がなかった、というような結果も得られています。 引き続き、食害を減らすような筏の設置方法や養殖時期について検討したり、他県等での対策事例を収集・			

普及するなどすることで、食害被害の低減に努めてまいります。

また、現在、県内各地からワカメの母藻を取り寄せ、これらからワカメの種に相当するフリー配偶体の確保を実施しています。今後、これらの中から、早生ワカメ、高水温耐性、高成長などの優良株を選抜して、優良系統を開発し、これらをワカメの生産者の協力を得ながら、現場に普及して参ります。

ノリ養殖の食害対策については、食害防止ネットの設置によるクロダイによる被害軽減やノリ網を沈めることによるカモ類による被害軽減対策が図られていますが、その効果も十分とは言えないことから、全国の情報交換会議に出席し、情報収集を行うとともに、有益な対策について普及してまいります。

解決予定年限

①1年以内

②2～3年以内

③4～5年以内

④5～10年以内

備考